

# みんなの居場所

## 裏面の話題

みんなの居場所の裏面は、小学生にとって必要ではないかと思う問題、漢字、語、慣用句等々を載せていきます。ご家族の団らんの話題にしてみてください。会話が広がります。

令和5年5月25日(木)

### 運動会を思い出してみよう！

明後日は運動会ですね。私はこいえば子供達の活躍を写真に残そうと、機材の準備を怠りませんでした。

毎年思っていますが、子供達の一生懸命な姿は感動を呼びます。フライング一越しに涙が出そうになることが何度もあります。私もその一つ時代があったのかと、少し思い出してみました。

小学6年生の時、私は楽しもうというよりはむしろ、徒競走で力手の勝負に抱き、走りながら集中していたように思います。係は確か「準備係」でした。プログラム順に道具等を準備し、競技毎にそれを出すのです。幾つか先のプログラムまで記憶して、走り回っていたことを思い出します。自分の徒競走が終わるまでは緊張のしっほなしてしたが、自分の出番の後は、小学校最後の運動会を楽しみました。仲間と走り回り、演技し、笑い合ひ、閉会式後に先生で写真を撮る……。どこにもあつた運動会の風景ですが、私にとっては掛け替えのない、大切な時間だったように思います。子供達にとっては、保護者の皆様にとっても、一生に一度きりの運動会が今年もやってくるのです。そのような時間を我々教職員は預かっています。責任重大です。子供達は何を求め、何をしたいのか、主体性や協働性を活かした指導をしなければなりません。

多分、長洲小学校の6年生にも同じような景色が広がっているのではないのでしょうか。先日、6年生に話をしたのですが、卒業までのカウントダウンが始まっており、実は残り10カ月しかない、全力投球です！

### 教員としての話を聞いてみたい！

先日、退勤時に家族からの買物をお願いし、光の森を經由して帰る途中に着くことになった時の事。

光の森へ行く時に必ず訪れるガソリンスタンドがあります。ガソリンだけでなく洗車やその他のサービスが充実しているガソリンスタンドです。そこで、給油中に起きた出来事です。アルバイトの店員さんが、キータイプの給油に利便性のあるサービスの紹介してくれました。あまり時間もないので「今日は結構です。」と断りました。それから数秒後、同じ店員さんがまた話しかけてきました。「すみません、もしかして以前、南ヶ丘小学校にいた先生ではありませんか？」「……ええと、たぶん」「澤田先生ですかね、僕達も3年生の時、担任の先生の代わりに教えてもらいました。〇〇〇です。」思い出しました。〇〇〇元気だったか？今何歳になったか？「19歳です。今年成人式です。」「あれから2年か、早いね、みんな元気か？」「こたな息子が、懐かしい話に花が咲きました。

当時、私は学級教諭としての勤務として授業をしていましたが、担任の先生がお休みされた時などに、担任代理として学級に入ることが多く、この子もそんな出会いをした子でした。一緒に活動した時間は力月程度でしょうか。それでもこうして覚えていてくれて、12年経ったにも関わらず声をかけてくれたのです。教師恩恵を感じた瞬間です。かなりエネルギーを費やした担任代理でしたが、逃げずに向き合った結果、「だから教師はやめられない」と思えた時間でした。教師の仕事は面白いです！

### シリーズ「自分を語る」#03

沖繩での研修は基本的にレンタカーでの移動でした。沖繩県は狭いのですが、公共交通機関での移動は時間がかかって勿体ないですからね。個人としては「美ら海水族館」に行きたかったのですが日程的に無理で、チェンヤと相談の結果、平和に関する施設を視察することになりました。とは言え、首里城（火災前に行きました。）には行きませんでした。沖繩到着直後、開園間近の時過ぎでした。首里城を走って観光する韓国人日本人の、オッサンス、2人なのでした。

平和に関する施設は、平和祈念公園です。ハフ研究室視察後の訪問でした。平和の礎、資料館等、広大なスペースに多くの学習の場がありました。ここを冒険して改めて思うことは、チェンヤは韓国人、私は日本人……。とても同じ地球に住んでいる。個人レベルではこんなにも仲良くできるのには、歴史を細かくて韓国には歴史的なつながりがある……。でも個人レベルでは……。そんな言葉の繰り返しが続いた。国際ニュースを見れば皆様も分かる通りですが、国家間には何故か争いが続いている。不思議です。私は国際課に勤務しましたが、国際問題や世界史については素人ですが、もう少し歴史を学ばないといけないと思いました。日本は島国ですから、国境を接する世界の国々とは少くも環境の違いがあります。同じ他国が攻めてくるかからないという点では日本は恵まれている。見ても日本には低かった。そんな中、内戦には多かったです。政府が大わらわ。その頃からのこと。日本が世界の中の日本を意識するようになったのは、考えてみれば、お隣の朝鮮半島情勢を学ばなければなりません。北と南は争った状態にあって、「あの辺りにはない」とも「あの辺りにはある」とも言っている。日本では国境線の問題はあまり出てきませんが、最近では、米韓露韓の問題や竹島問題が取り沙汰されています。その最前線を松浦国民が自らの問題として捉えているか？それは、私もよく疑問です。そして、今私が思っているのは、同じ地球に住む一人として、地球のために何かできるか、何か考えなければならぬような気がしています。

すっかり堅い話になりましたので、オッサンスの話に戻ります。2人の多国籍オッサンスはレンタカーで移動中、「おきなわワールドハフ博物館」という看板を見え！行くしかないとその場のノリに流され、中へ。何でも「ハフ使いシヨ」なるものがあるようで、チェンヤはソリソリで「見たいー」という始末。ま、これも国際協力という無理な理由付けで観望もして。何もかも、ハフとマンダースの対決シヨだったとて、動物愛護の視点から現在では考えられないのでした。それこそ、ハフの超能力は凄いです。鼻のような顔の穴で熱を感じ、熱源に向かってくる。そして、ハフのえびつない所は毒を注入する牙が長いこと、注入する毒の量が多いことなどです。そんなシヨを見た後、また、山の中をレンタカーで移動する二人。ここを見ても早いです。そこかしこにハフがいて、緊張感のあるドライブでした。2日目の研修終了後、国際課（那覇市の観光通りです）へ。1日の緊張感を癒す心地よい時間を過ごしたい。(ついで)